

他府県から働きに来ていた人ではなく、ここで生まれ・ここで少年時代を過ごし・ここで結婚し・子供をもうけ、両親や妻や子供や家族は皆、原発と目と鼻の所に住んでいる。だから、人類愛に燃えてというよりも、具体的な愛の対象を持っていました。

自分たちが今くい止めなければ、愛する妻・子・両親・家族は全滅。

その自己犠牲の超人的なアイデアの連発で、奇跡としか言いようがない。

これは明日、テレビのロードショーで放送されるようですね。『Fukushima 50』（福島フィフティ）。

すごい映画なので、ぜひご覧になったらいいかなと思います。

今年は10年目なので、今日午後2時46分から東日本大震災10年追悼式典が行われました。

私は1時間ほど見ていましたが、4人の遺族の方が各県を代表して追悼の言葉を述べました。

私の印象に残ったのは福島県代表の斎藤誠（さいとう まこと）さん。教員をしておられた方です。

この方は311で5歳の次男を失ったそうです。もし生きていたら今15歳。「中学3年で、進路相談にも乗ってやるのが出来たんだが…」と言っておられましたが、もう本当に胸が苦しくなりました。

他の方々の挨拶も、とても心に残るものが多かったのですが、皆異口同音に「10年前の事がどんどん風化しているので、忘れ去られないように、私たちはバトンを受け継ぎたいと思います」というような内容の挨拶が多かったのです。

しかし、この福島県代表の方はちょっと違ったんですね。「皆さん、忘れないでください！」とは言わない。代わりに、「南海トラフ大地震では、東日本大震災を超えるような大津波がやって来るといわれています。私たちの経験を教訓として活かしていただきたい」と仰ったんです。

「10年前の事を忘れないようにしましょう」ではなく、「これよりもっと酷い事が、やがて日本にやって来る。それに備えて行くために、私たちが経験した事を教訓として学んで活用してください」という提案です。何となく、会場がフツと目が覚めたような気がしました。

科学で色んなことが分かるようになって、地震の予測だけは今でも難しいそうですね。

だけど南海トラフ大地震という、東日本大震災をはるかに上回るような、（一説によるとマグニチュード10があり得るとい）地震が起こる可能性が、今から20年以内に70%以上だそうです。

いつ起こるか分からないわけだから、西日本・大阪に住んでいる者も、よくよく準備しておかなければならないと思ったんですが、私は目が覚めるような彼のその勧めを聞きながら、これは聖書のメッセージに似ていると思いました。

聖書は「これから大変な事が起こる」ということを、前もって“終末預言”という形で語っています。

しかし、ただただ怖がらせるのではなく、そこから逃れるための備えをさせるメッセージが聖書のメッセージなんです。

黙示録は、人類がやがて突入しようとしている7年間の患難時代について、多くのページを割いていますが、患難時代に人類の身に降りかかることは、東日本大震災の災害を何百倍にもしたようなもの。というのは、日本の一地方ではなく、世界中でこの事が同時多発で起こるだろう。

今世界で地震・津波・異常気象・サバクトビバッタの大発生・おかしな流行り病が世界中に蔓延し、人間の手に負えないような事が次々起こっている。聖書を見ると、これらはみな前兆だと言うんです。

“もしあなたがたがこれらのことを見るならば、あなたがたは人の子が戸口まで近づいたと知りなさい。” 様々な天変地異やおかしな出来事は、世の終わりになるほど いよいよ酷くなります。

これは、聖書を見るならば患難時代の前兆です。

“キリストが再び地上に下りて来るその前兆だ。だから備えなさい” というメッセージなんですね。

今日は黙示録 12 章 1 節 - 6 節を読みたいと思いますが、その前に、今自分たちがどの辺りにいるのか、黙示録の中でどうなっているのかを考えたいと思います。

やがて人類は 7 年間の患難時代に入ります。患難時代は前半と後半に分けることが出来て、前半の説明はもう終わっています。これから見ようとしているのは、7 年間の患難時代の中でも、前半とは比べものにならない恐ろしい後半/クライマックス、言わば大患難時代についての預言です。

黙示録は時系列で書かれています。どんどん時代が前に進んで語られているのですが、4 カ所だけ挿入箇所があるんですね。今日の黙示録 12 章 1 節 - 6 節は 3 回目の挿入箇所です。

ここには、後半の 3 年半（大患難時代）に、特に中心的な役割を果たす人物が 7 人登場します。今 人物と言ったけど、人ではない存在も入っているので、人物という言い方は変かもしれません。7 つの登場者。それについて先に説明がされます。それらの正体や役割を前もって知っておくことで、時系列の説明が始まった時に、スッと理解できるような構造で書かれているんですね。だから、黙示録は難しくなく、構造が分かると、なんと読者に親切に書いてあるのかが分かります。

では、7 つの登場者はいったい誰か？

①一人の女 ②女が産む男の子 ③女と男の子を凄まじい憎悪で憎んで滅ぼそうとする赤い竜
④赤い竜と戦って天から叩き出す御使いの頭（かしら）ミカエル ⑤女の子孫の残りの者たち（患難時代に救われるユダヤ人たち） ⑥海から上がって来る獣 ⑦地から上がって来る獣

この 7 つの登場者の役割を前もって知っておくと、これから展開して行く黙示録の話がスッと頭に入るようになります。①②③は 12 章 1 - 6 節。④⑤は 12 章 7 - 18 節。⑥は 13 章前半で反キリスト。⑦は 13 章後半で偽預言者。

今日は 7 つ一週にやると、みんな破裂すると思うので、①②③に絞って、コンパクトにまとめさせていただきます。

① 〈一人の女〉

12:1 また、大きなしるしが天に現れた。一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。

大きなしるし。大きなは偉大な。単にサイズがでかいというよりも、意味が深い・意味が大きい。

“大いなる” と訳した方がいいでしょう。大いなるしるしが現れた。

しるしはギリシア語でセメオン。マークや標章などの 要するに象徴のことです。

今まで黙示録を解説する時、字義的に読むのだと何度も言って来ました。

イスラエルと出て来たら、イスラエルと解釈しなければならない。

十四万四千人と出て来たら、十四万四千人と解釈するんです。

しかし、ここではしるし(象徴・マーク)。一目見て、何かを訴えるメッセージを持つ記号なんですね。

その筆頭に出て来るのが**一人の女**。この女は非常に奇妙なコスチュームです。

一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。

聖書を読んだことがない方がこの箇所を初めて読んだら、「これ、何を意味してるのか？」とチンプンカンプン。だけど、聖書を1度でも読んだことがある方は、「ああ、あれか！」とすぐに思い出す箇所があるはず。それは**創世記 37 章**。

ユダヤ人の族長にヤコブ(別名イスラエル)という人がいました。彼には4人の妻がいて、彼女たちから12人の息子が生まれます。12人を平等に愛すれば良かったけど、ヤコブは最愛の妻から生まれた下から2番目の息子を溺愛しました。その子はヨセフ。ヨセフが可愛くて仕方ない。彼の母親は既にいません。ヨセフの面影の中に、今は亡き妻の似姿を見て、懐かしかったのかもしれない。

とにかく平等に愛するのではなく、露骨なえこひいきで、ヨセフにだけ特別な長服を着せた。他の11人はGU着てるのに、ヨセフだけアルマーニみたいな。ちょっとたとえをどう言っても分かりませんが。とにかく扱いが平等じゃない。それで、兄貴たちはヨセフの顔を見てまともに話せない。穏やかに話すことが出来なかったと書いてある。ただでさえヨセフを毛嫌いして、「コイツ生意気だ！お父さんの愛を独り占めしやがって！」と思っているけど、ヨセフは「兄さんたち、ちょっと聞いてよ。僕こんな夢見たんだ」と言って、その夢の話をして。

創世記 37:9-10

9. 再びヨセフは別の夢を見て、それを兄たちに話した。

彼は、「また夢を見ました。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいました」と言った。皆さんはこれを聞いた時、「へえ～。天体がキミを拝んだんか～。」

いや、それを聞いただけで、聞かされたお父さんのヤコブは「お前、なんちゅう夢見るんや！」と叱ってるんです。

10. ヨセフが父や兄たちに話すと、父は彼を叱って言った。

「いったい何なのだ、おまえの見た夢は。私や、おまえの母さん、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むというのか。」

ヤコブは誰の解釈も聞かずに、この夢の意味を正確に言い当てているんですね。

太陽は族長であるお父さんのこと。**月**はお母さんのこと。**十一の星**はヤコブ(イスラエル)から生まれ出た息子たちのこと。なぜ12の星ではなくて11かというと、自分(ヨセフ)を拝むから。自分は12のうちの1つなのに、自分を拝んでいると言ったのですね。

つまり、旧約聖書で既にこういう説明があって、“太陽と月と星が1つのセットになって、何かを描写している。その何かとはイスラエルなのだ”ということが、ここで説明されているのです。そして、“黙示録を読む読者は、当然この描写は心に留まっていて覚えているだろう”という前提で、先程の箇所が語られているんです。

もう1度**黙示録 12:1** **一人の女が太陽をまとい、月を足の下にし、頭に十二の星の冠をかぶっていた。**

一人の女が太陽をまとい。太陽はお父さんが持っている権威。

アブラハム・イサク・ヤコブと族長たちが受け継いで来たアブラハム契約は、イスラエルは世界の中心になるという約束です。その約束が実現している…かのように見える女。

月を足の下にし。これは、家庭内暴力で母親を蹴ってるとか思わないでくださいよ。

母親を足台にして「何で、俺 産んでん！」とか、そんなんちゃいますよ。

これは、支えられているという意味だと思います。ユダヤ人は、もちろん父親が教育するし、アブラハム契約は族長たちから受け継いで来たものですが、ユダヤ世界における母親の役割は、決して小さなものではなかったんです。

頭に十二の星の冠をかぶっていた。

太陽・月・星。この3つを身にまとっているのだから、先ほどの創世記の知識を組み合わせると、一人の女はイスラエル（ユダヤ民族）のことで。

つまり、大患難時代は地上のイスラエルを巡る預言なんです。イスラエルが主役を果たします。

②〈女が産む男の子〉

12:2 女は身ごもっていて、子（男の子）を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

男の子という象徴・しるしは何を意味するのか？

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。

イスラエルが産んだこの子は、全世界を統治する王の王・主の主である方。メシアのことです。

なぜ、これがメシアだと言い切れるのか？ 詩篇 2 篇。これはメシア詩篇と言って、やがてイスラエルから出て来る 人類の救世主に関する預言なんです。詩篇の中で最初に出て来るメシア預言です。

詩篇 2:7 私は主の定めについて語ろう。主は私に言われた。「あなたはわたしの子。わたしが今日 あなたを生んだ。」

主の定め。神様は人類救済計画を持っている。それはもう定まっている。

神は人類を救うために、ある計画を定めておられるので、時が来たら必ず実現する。

その定めとは何か？ 主は私（メシア）に言われた。『あなたはわたしの子。わたしが今日 あなたを生んだ。』人として来るメシアに対して、「あなた（メシア）はわたし（神）の子。わたしが今日 あなたを生んだ。」神が生んだメシアなる人。

「人間も神の子です」とよく言いますが、例えば、大工さんがこの机を作りました。

この集会にもものすごい名人の大工さんがいて、作ってくださった。この机は大工さんの作品です。

その大工さんが結婚して子供を生みました。その場合“大工夫婦がこの子を生んだ”。

しかし、“大工が机を生んだ”とは言わない。机も作品。でも、机は子供じゃない。

神は人間を作品として造られたけど、人間を生んだんじゃないんですね。

神と人間は同質のものではありません。

創造主と被造物の間には、超えることが出来ない隔たりがあります。

どんなになっても、人が神になるというのは絶対にあり得ないこと。起こらないことです。

ところが、あなたはわたしの子。わたしが今日 あなたを生んだ。神と同質のお方。

詩篇 2:8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与える。地の果ての果てまであなたの所有として。

全世界の隅々まで あなたが治めるのだ。わたしはあなたにその権限を与えるのだ。

詩篇 2:9 あなたは 鉄の杖で彼らを牧し 陶器師が器を砕くように粉々にする。

鉄の杖で世界を統治する・牧する存在。それはメシアである。

ということを入れて黙示録 12 章。

12:5 女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもってすべての国々の民を牧することになっていた。男の子はメシアです。キリストです。そしてイエスです。

12:2 女は身ごもっていて、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

ユダヤ人が世界の色々な民族から取り分けられて選ばれたのは、メシアをこの世界に遣わすため・生み出すためです。そのために選ばれた民族なのです。

ユダヤ民族の使命は、メシア(キリスト)をこの世界に到来させるために選ばれた器ということです。

ところが、その使命を負っているがために、子を産む痛みと苦しみのために、叫び声をあげていた。

“メシアをこの世界に到来させるために用いられる”と決められていたユダヤ民族は 随分苦しむことになる、と言うんですね。なぜ苦しむことになるのか？

メシアの到来を喜ばない赤い竜に、いつも狙われるからです。

12:3 また、別のしるし(象徴)が天に現れた。見よ、炎のように赤い大きな竜。

それは、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

ちょっと話が逸れるのですが、赤い竜とは何か？を考えた時、最近 私の YouTube にコメントが入って、断言する方がいるんですね。習近平やと。

「赤は共産主義の色や。中国の国旗見てみ。赤いやろ。それに中国は、昔からドラゴンをシンボルマークにしてるじゃないか。赤い竜は習近平や！」「それはあり得ないよ」と説明したけど、「それでも、僕はそう解釈したいです！」それは好きにね。

そういうことを言っていたら、聖書を読んでも分からなくなりますね。赤い竜は習近平じゃないです。

12:9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

赤い竜とは悪魔(サタン)です。人間じゃない。霊的な存在。

悪魔(サタン)と呼ばれている者は全世界を惑わす者。

例えば、聖書の真実を知ってイエス・キリストを信じた後で、あまり順調でないことが続いた時、「神はお前のことなんか祝福してないぞ」と、不信仰になるように働きかけるような霊的な存在がいる。そう聖書は言うんです。

この集会にいらして話聞いている時は、「ああ、神は私を愛してくださったんだ。イエス・キリストは私の救い主だ」とホッとして帰りながらも、道でつまずいて怪我したら「何でやろ？何でや？何で？呪われてるんちゃうか？」呪われてるんじゃないくてね、足衰えてるんですよ、それ。

もう、なんか思わしくないこと全部、神の呪いと結び付けて。これ、背後に悪魔（サタン）がいます。そして、そんな考え方を受け入れるのは悪魔の側に加担して行くことで、危ないことですよ。

聖書には“神はあなたを愛しています。なぜなら、神は愛だから。”

“God loves you. Because God is love.”

神が愛だから、あなたを愛してくださっている。あなたが立派だからじゃない。

あなたを愛さなくなったとするなら、神は愛でなくなったということだから、神でなくなったことになるじゃないですか。それはともかく、**赤い竜はサタン（悪魔）**のことです。

赤い竜には3つの特徴があります。

赤い竜の特徴1) 七つの頭と十本の角を持つ姿をしている

12:3 それ（赤い竜）は、七つの頭と十本の角を持ち、その頭に七つの王冠をかぶっていた。

これは、悪魔の計画を実行するために、この地上にやがて登場する世界帝国の姿の特徴です。

聖書で“角”と出て来た時は“国”を表します。**ダニエル書**には、世界帝国を角で言い表して預言しているところが頻繁に出て来ます。“頭”は“支配者・王”のことです。

黙示録 17:7-9

7.すると、御使いは私に言った。「なぜ驚くのですか。私は、この女の秘められた意味と、この女を乗せている、七つの頭と十本の角を持つ獣の秘められた意味を、あなたに話しましょう。」

9 ここに、知恵のある考え方が必要です。

七つの頭とは、この女が座している七つの山で、それは七人の王たちのことです。

“山”も聖書に何回も出て来て“国”を表します。“頭”は“王”。

今から言う解釈は、一般的に解釈されていることです。今日のところは、私もその立場でお話します。

「そのまどろっこしい言い方、今日のところはって、どういうことやねん？」

実は 他の考え方がよぎっているんですけど、それはね、すごい時間かかるんです。

なので、今日は一般的に言われている方を話したいと思います。結論は一緒で、そんな大した違いはないので、神経質になる必要はないと思います。どちらも結論は同じです。

今日は7つの頭（7人の王）に表されている、悪魔の執行手段/機関となった王たちをご紹介しますと思います。

ユダヤ人の4千年の歴史を振り返った時、ユダヤ民族の絶滅を謀った者が6人います。

①エジプトのファラオ

モーセ時代、ファラオは「ユダヤ人の男の子は全員溺死させろ。ナイル川に放り込んで殺してしまえ！」と言いました。これがBC15世紀。

②アッシリア帝国のセンナケリブ

やがてイスラエルは国を持ちますが、色んな内紛があつて南北に別れてしまいました。

北イスラエル王国と南ユダ王国。日本にも南北朝時代がありましたね。

センナケリブはBC722年に北イスラエル王国を滅ぼしました。

③バビロニア帝国のネブカドネツアル

彼は BC586 年に南ユダ王国を全滅させました。

④ペルシア帝国のハマン

ハマンはアハシュエロス王（クセルクセス 1 世）時代、王の代理として、ペルシアに住んでいるユダヤ人の全滅計画を立てました。BC5 世紀半ば、彼は“ペルシア中のユダヤ人に 一斉に襲いかかって 良い”という法律を王に作ってもらい、王のハンコを持って実行する寸前まで行ったけど、エステルの活躍で実行されずに済みました。

⑤ギリシアのアンティオコス・エピファネス 4 世

ギリシアは 4 つに分かれます。その中のセレウコス朝シリア。ややこしければギリシアでいいです。彼はユダヤの神殿に豚を献げ、従わないユダヤ人を全滅させようとしてしました。やがて登場する反キリストのモデルです。

⑥ローマ帝国のウェスパシアヌス皇帝

彼は元々将軍でしたが、皇帝ネロの命令を受けてエルサレムを攻撃しました。しかし、攻撃の最中にネロが自殺。その後 1 年間に皇帝が 3 人もコロコロ代わって、「リーダーシップ持っている人以外はダメだ。1 番リーダーシップを持っているのは誰か？ウェスパシアヌスだ！」ということで皇帝にされた人。彼の時代 AD70 年にエルサレム神殿が炎上し、そして、ユダヤ人は全世界に散らされました。

ユダヤ人の歴史を考えていくと、この 6 人の国/王の時代に、ユダヤ民族は全滅寸前まで行くんです。では 7 番目は？ まだ出て来てません。この 7 番目が患難時代に登場する反キリストです。

やがて世界統一政府が出来ますが、これが 10 の国にバラバラになります。

反キリストは 10 の国をひとまとめにしますが、その中の 3 つの国が反キリストに謀反を起こすので、彼は 3 つの国の王を殺します。残り 7 人はそれを見て震え上がり、反キリストに従う。

なので、七つの頭と十本の角なんです。

なぜ七つの頭と七本の角とか、十本の頭と十本の角でないのかというと、そういうことだからです。

これはまた、次の次に出て来ます。だから、これは足繁く通うしかないですよ。ホンマに。

赤い竜の 3 つの特徴の 1 つ目は七つの頭と十本の角。

赤い竜の特徴 2)

12:4 その尾は天の星の三分の一を引き寄せて、それらを地に投げ落とした。

聖書の中で象徴として星が使われているときは、いつでも天使（御使い）のことです。

赤い竜は天の星（天にいる御使いたち）の三分の一を自分に引き寄せて、それらを地に投げ落とした。

これは、天使の 1/3 が神を裏切って悪魔に従ったということで、悪魔に従った墮天使（だてんし）/ 叛逆の御使いたち/ 悪い御使いたちを悪霊と言います。

地に投げ落としたとあるように、悪霊は今 この地上で活動しています。

たとえば 占い・交霊（降霊）術・様々なカルト現象。そういうことの中に、妙に的中するというものがある。そんな悪魔的・悪霊的な力はトリックとかではなく、悪の霊によるものが確かにあります。それをやっているのが悪霊たちで、その親玉がサタン。

しかし、私たちは恐れる必要はありません。天使が墮天使（悪霊）になったのは全体の 1/3。
ということは、残りの 2/3 は神に従っている御使い。ということは、神に従う御使いは悪霊の 2 倍。
おびたしい悪霊！ でも全体の 1/3。
残り 2/3 は神に従う御使いで、彼らはキリストを信頼する者を日々守るんです。

私も本当に守られていると思いますよ。私を担当している御使いは忙しいと思いますね。不注意多いから。もう危機一髪の連続じゃないかなと思います。

だから、悪霊や悪魔（サタン）を神経質に・過剰なまでに恐れすぎるのは、悪魔の罠に掛かることなんです。そんなものに心向けない方がいいと思います。

赤い竜の特徴 3) 女と、女の産んだ子を徹底的に憎む

12:4 また竜は、子を産もうとしている女の前に立ち、産んだら、その子を食べてしまおうとしていた。女はイスラエル。子はイエス・キリスト。

イエス・キリストが地上にお生まれになった時のイスラエルの王は、ユダヤ人ではなくエドム人のヘロデ王。ヘロデ王は「メシアが生まれた」との報告を受けた時、メシアが生まれたベツレヘム村の 2 歳以下の男の子を皆殺しにする命令を出し、それは実行されました。
生まれて まだ自分の足で歩くことが出来ない時に息の根を止めてしまおうと、ヘロデを使ってメシアを殺そうとした。その子を食べてしまおうとしていた。

そして成長した後は、メシアの活動を妨害するために、ひっきりなしに横槍を入れて来るんです。新約聖書の福音書を見ると、悪霊に憑かれている人がやたらと出て来ます。
何で こんなにたくさん悪霊いてんの？

それは 1/3 の悪霊が、イエスが生きていた時代のイスラエルに総動員されて邪魔していたから。その中でイエス・キリストは悪霊に憑かれた者を解放し、神のみわざを着々と行っていかれたんです。

サタンはイエスの人類救済を、何とかして十字架以外の方法に逸らせようとはしますが、イエスは十字架に掛かられました。その時、多くの人々がイエスに言ったんです。
「お前がメシアだったら、十字架から下りて来い！」 これは悪魔が言わせてますね。
イエスが十字架から下りたら、人類救済の手段・救いは無くなります。
しかし、アリが象に戦いを挑むようなものですよ。

キリストはその十字架で私たちの罪の贖いを成し遂げ、墓に葬られ、3 日目によみがえり、そしてオリーブ山に行き、そこから天に上って行かれました。それが 5 節に書いてあります。

12:5 その子は神のみもとに、その御座に引き上げられた。

初臨のキリストがなすべきことを全部やり終えて、キリストは救いを完成した。
じゃあ、もう生まれてしまったんだから、どうにもならないのか？ そうじゃないんですね。

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

女が産んだ子に対する攻撃はもう出来ないの、悪魔は子を産んだ女（イスラエル）を攻撃するようになった。

世界を見渡したとき、特定の民族が他の特定の民族に弾圧されるのは珍しいことではありません。今中国では、ウイグル民族・チベット民族・内モンゴルの人たちが、習近平の命令の下、大弾圧を受けている。長い歴史を見ると、少数民族は多数派民族に弾圧されることはよくあるのです。だけど、ユダヤ民族ほど、存在してからずっと呪われ・叩かれ・迫害され・踏みつけにされて来た民族ってないですよ。

以前ここで、『なぜユダヤ民族は迫害されるのか』という講演をしたことがあります。その時にも言ったと思いますが、ユダヤ人は、民族主義者や富裕層からは「共産主義を考え出したのはユダヤ人だ！」と迫害されるんです。「マルクスはユダヤ人だ。共産主義はユダヤ人から来た。ユダヤ人が共産主義という恐るべき無神論をばらまいた。現に、ソ連のボルシェビキの殆どはユダヤ人だった。」

ところが共産主義国に行くと、「人間に不平等があるのはブルジョワジーが金を独占するからで、その典型例がロスチャイルドだ。ロスチャイルドはユダヤ人だ！」

ユダヤ人が世界中に散らされて生きている時は、「ユダヤ人は国の中に潜んでいるスパイみたいなもの。信用出来ない！」ヒトラーがそう言ったんです。「ユダヤ人は、いつ寝返るか分からない敵性国民である」と弾圧しました。

ユダヤ人が国を持ってイスラエルに住んだら、「ユダヤ人はパレスチナ人を民族差別する差別主義者だ！」

国があると“国がある”という理由で反対され、国がなかったら“国がない”という理由で迫害され、貧乏なら“貧乏だ”という理由で迫害され、金持ちなら“金持ちだ”という理由で迫害され。どないしたら ええねんと。

なぜユダヤ人だけが、こうも次から次へと迫害の理由を貼り付けられて、そんなことをされるのか？

また、ある人たちはこう言うでしょ。「ユダヤ人はメシアであるイエスを十字架に付けた。だから呪われている！」

皆さん、イエスは十字架に付く前に2種類の裁判を受けています。

ユダヤ人からと同時に、ローマ人の裁判官ピラトからも裁判を受けて、両方とも有罪判決です。

十字架処刑に引き渡したのはユダヤ人ですが、実際にイエスの着物を剥いで鞭打ちし、イエスの体に釘を打って十字架に付けたのはローマ兵です。

もし“イエスを十字架に付けたから呪われている民族だ”と言うなら、ローマ兵の末裔であるイタリア人は呪われてなあかんやん。世界中に散らされないと駄目じゃないですか。

そんなん、誰も言わないでしょ？ だからね。色んな人がユダヤ人が嫌われる理由を挙げるけど、私は腑に落ちたためしが1回もない。1つの説明を除いて。

私が納得できる唯一の説明はこれです。サタンです。

サタン（悪魔）は“イスラエル（ユダヤ民族）を滅ぼすことが出来たら、男の子はもう出て来れない”ということで迫害して来たけれど、出て来てしまった後、尚イスラエルが迫害される理由は何か？

“キリストが地上再臨する条件は、イスラエルがイエスを救い主として受け入れること”だから。

イエスは十字架に掛かる数日前、ユダヤ人の指導者（パリサイ人・律法学者）と言われている人たちに向かって、激しいメッセージを語られたのですが、これはその締めくくりの部分です。

マタイ 23:39

わたし（イエス）はおまえたち（ユダヤ人とその指導者たち）に言う。今から後（将来）、「祝福あれ、主の御名によって来られる方に」とおまえたちが言う時が来るまで、決しておまえたちがわたしを見ることはない。

祝福あれ、主の御名によって来られる方とは、メシアに対する信仰告白の言葉。

これは“バルハバ ベシムアドナイ”という言葉で、詩篇 118 篇 26 節に出て来ます。

詩篇 118:26 祝福あれ 主の御名によって来られる方に。私たちは主の家からあなたがたを祝福する。

「おまえたちがわたしをメシアとして受け入れ、この信仰告白を言う時が来るまで、決しておまえたちはわたしを見ない。」

ということは、「おまえたち（ユダヤ人の子孫たち）がイエスに向かって『イエスこそ、旧約聖書で預言されていたメシアです』と告白する時が来たなら、その時、おまえたちはわたしを見る。」

「わたしを見る」とはどんな意味ですか？ 地上再臨するということ。

キリストがこの地上まで下りて来るということです。

キリストに地上再臨させないために、地上再臨の前に、ユダヤ人の全滅に成功する。

ユダヤ人が1人もいなくなれば、ユダヤ人が集団で・民族的スケールで、イエスをメシアとして受け入れることが出来ません。当事者がいないんだから。なので、ユダヤ人を目の敵にして狙うんです。

神に愛されている者には、悪魔が色々、信仰とか疑いをかけて攻撃して来ます。

皆さんの中に「なぜ私はこう不信仰になって、元気なくなってくるん…？」

これ、悪魔があなたを狙っていると同時に、神はあなたを愛してるんです。神はあなたを忘れてない。

そして、必ず脱出の道を備えていてくださるんです。

12:6 女は荒野に逃れた。そこには、千二百六十日の間、人々が彼女を養うようにと、神によって備えられた場所があった。

千二百六十日は3年半です。ユダヤ暦では1年360日なので $360 \times 3.5 = 1260$ 。

悪魔がイスラエルの息の根を止めようとしたその時、神は荒野にご自分が備えた場所を用意して、脱出の道を備えて彼らを守られる。その場所は、現在のヨルダンのボツラという所です。

適応ですが、もう一貫の終わりだと思っても、神はちゃんと脱出の道を準備してくださっていますからね。そういうことです。

さて結論です。今 トランプ大統領が落選して バイデン大統領が誕生したことを巡って、もうネット上では色んな論説が飛び交っていて、私がちょっとでも異を唱えたと、まるで私が民主党員であるかのように責め立てて来る人がいるんですよ。そんなことない！私は誰にも負けないくらいトランプ大統領を支持してますよ。

私が何にくみしないかという陰謀論です。陰謀論。特にユダヤ陰謀論。

